



尾崎宇内  
(てがみ座)



福田温子  
(てがみ座)



今泉 舞  
(てがみ座)



箱田暁史  
(てがみ座)



有山尚宏  
(東京乾電池)



原 扶貴子  
(KAKUTA)



森 啓一郎  
(東京タンパン)



佐野陽一  
(サスペンデツス)



和田真季乃



中村シユン



岩瀬晶子  
(日隠-bion-)



中田春介

## てがみ座 第7回公演

# 青のはて — 銀河鉄道前奏曲 —

脚本:長田育恵 演出:扇田拓也 (ヒンドウ五千回)

### 2012年11月30日(金)~12月3日(月)

30日(金) 19:30

1日(土) 14:00 | 19:00

2日(日) 13:00 | 18:00\*

3日(月) 14:00

公演数:全6回

※★=アフタートーク実施(詳細は劇団ウェブサイトにて発表)  
※開演の45分前より受付開始、30分前より開場いたします。  
※全席指定ですが、開演5分前を過ぎますと、本来の席にご案内できない場合がございます。お早めに受付をお済ませください。  
※未就学児はご入場いただけません。

## 吉祥寺シアター

〒180-0004  
東京都武蔵野市吉祥寺本町1丁目33番22号  
JR中央線・京王井の頭線吉祥寺駅  
北口下車徒歩5分  
TEL:0422-22-0911(劇場事務所)



### 10月13日(土) AM10:00 一般発売開始 (全席指定)

一般 前売 3,800円 当日 4,300円

※当日券は開演の45分前より販売いたします。

早割 前売 3,500円 (10月1日(月)~7日(日) 限定予約受付)

※劇団のみ取扱(各回枚数限定) ※10月12日(金)までに指定口座に代金をお振り込みいただきます。  
詳しくはご予約受付時のご案内をご覧ください。

### チケット取扱

てがみ座ウェブサイト <http://tegamiza.net>

チケット受付専用MAIL [ticket@tegamiza.net](mailto:ticket@tegamiza.net)

チケット受付直通ダイヤル 080-5489-7854  
(palette&bullet/10:00~20:00)



携帯用予約フォーム

### STAFF

舞台監督: 杉谷昌洋  
舞台監督助手: 森山香緒梨  
舞台美術: 杉山 至+鷗屋  
照明: 木藤 歩  
音響: 笠木健司(クロムモリブデン)  
衣裳: 阿部美千代(MIHYプロデュース)  
演出助手: 宮田智子  
宣伝美術: 山下浩介  
宣伝美術写真(雪の結晶): 小畑雄嗣  
舞台写真: 伊藤雅章  
撮影: 彩高堂「西池袋映像」  
手紙: 右近金魚  
WEB: 高橋典子(RICO STYLE)  
制作: 野崎百合香

協力: KAKUTA

グリーンメディア  
サスペンデツス  
ダックス  
東京乾電池  
東京タンパン  
東宝芸能  
ノックアウト  
palette&bullet  
日隠-bion-  
ヒンドウ五千回  
舞台美術研究工房 六尺堂  
プロダクション・タンク  
ワンダー・プロダクション

助成: 芸術文化振興基金

票券: 藤田晶久 (palette&bullet)  
制作協力: 小野和佳子  
アーツカウンシル東京準備機構  
(公益財団法人東京都歴史文化財団)

■お問合せ: 演劇ユニットてがみ座 <http://tegamiza.net> MAIL: [info@tegamiza.net](mailto:info@tegamiza.net) TEL: 090-1706-0061 (チケット予約は受け付けておりません。チケット予約・公演期間中問い合わせは下記へ)

■公演期間中問合せ: 080-5489-7854 (palette&bullet)

一九二三年七月三十一日  
午後九時五九分、花巻発。  
琴座が天頂に輝くこの時刻、  
賢治は北へ向かう列車に乗り込んだ。  
北海道から宗谷海峡を渡り樺太へ。  
樺太庁鉄道の最北端、栄浜へ。  
それは、前年に亡くした  
妹トシの魂の行方をもとめる旅だった。  
栄浜から白鳥湖を目指して、  
闇の中を歩き続ける賢治。  
八月三日午後十一時十五分、  
盤面は蒼しうく光り、  
白鳥座が天頂に達する。  
天と地の青がひとつに溶け合うその地点、  
賢治は遙か銀河を見つめた――。  
白らの生を捧げて「ほんたうの幸」を  
求め続けた賢治。  
誰より純粹なその祈りは、  
厳しい寒さや烈風に晒されながら  
いつそう強靱に磨かれ、  
やがて後半生の十年をかけ  
『銀河鉄道の夜』を書き継がせていく。  
永遠の未完成である物語は、  
まだ果たされない一つの願い。  
喪われた最果ての地を舞台上に  
心の彷徨を描きだす。